

## 米国が「和平」を許さなかったと独元首相

オットー・ゲッティ・マジズ

ウクライナ・ブラウダ - 2023 年 10 月 21 日(土) 14:33

[Former German Chancellor claims he "mediated" situation between Ukraine and Russia in 2022 | Ukrainska Pravda](#)

ドイツのシュレーダー元首相は、2022 年にウクライナ側の要請でロシアとの「仲介」にあたったが、ウクライナが和平を受け入れなかったのは、「アメリカがそれを許さなかったからだ」と明らかにしている。



これは同元首相が、ドイツの左翼紙『ベルリン・ツァイトウング』との長文のインタビューでのべているもの。 [Berliner Zeitung](#)

同氏はこのなかで、「私は 2022 年にウクライナからロシアとの仲介の依頼を受けた。問題は、私がプーチンにメッセージを伝えられるかどうかだった」と指摘。当時議論されていたとされる「和平案」の 5 つのポイントは、ウクライナの NATO 加盟拒否、ウクライナの「2 つの公用語」、ドンバスの「自治」、ウクライナの「安全保障」、クリミアの地位に関する交渉だった、とのべている。

また「ウクライナの戦争を解決できたのはアメリカだけだった。2022 年 3 月にイスタンブールで行われたルステム・ウミエロフ（現国防相）との和平交渉で、ウクライナ側は和平に同意しなかったが、それは許されなかったからだ。

彼らはすべてを最初にアメリカと話をして調整しなければならなかった」とのべている。

シュレーダー元首相は、ウミエロフ国防相と話し、「プーチンとも内密に話をした」とのべているが、いつ、どこで、どのような役割で、とは明言しなかった。

「しかし、結局何も起こらなかった。私の印象では、他のことはすべてワシントンで決まっていたから、何も起こらなかった。それは致命的だった。なぜなら、ロシアは中国との結びつきを強めることになり、西側諸国はそれを望まないはずだからだ」と、同元首相は結論づけた。

国際法に著しく違反し、自国の約束にもかかわらずウクライナを攻撃したロシアとの協定は信用できるのかという質問に対し、元首相は、ロシアがNATOを打ち負かすことはできないので、西ヨーロッパは「危険ではない」と述べた。

「ロシアでは、西側諸国はNATOをポスト - ソビエト地域、すなわちグルジアとウクライナにまで拡大したいと考えていると考えている。誰が政権にいようともロシアのトップは誰もこれを許さないだろう。この危険分析は感情的かもしれないが、ロシアにとっては現実的なのだ。西側諸国はこのことを理解し、それに従って妥協しなければならない。そうでなければ、平和の実現は難しいだろう」とシュレーダーは付け加えた。

シュレーダー元首相は、ロシアのプーチン大統領とのつながりやロシアのエネルギー企業の代理のような仕事は、ドイツ社会民主党からも批判を浴びているが、いまま社会民主党員である。同首相は2022年、ロシアによる侵略は不当だと非難したものの、プーチンは批判しなかった。このためドイツの政界に強い批判を呼び起こした。

【翻訳チェック 田中靖宏】